
アイ・アイロボット

西宮尚

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アイ・アイロボット

【Nコード】

N1808C

【作者名】

西宮尚

【あらすじ】

20XX年。愛玩用動物ロボット『アイ・アイ』が開発された。そのロボットは人々の心をとらえて、爆発的に普及した。ショートショートSFです。

20XX年。

万人が愛することができると愛玩用動物ロボットが開発された。

人それぞれに好みはあるが、そのロボットはかわいいと思える容姿と仕種を、個々の好みに合わせるAIを持っていた。

そのロボットは、『アイ・アイ』と名前をつけられ、爆発的に普及した。

F・S君（8才）の証言

たしかに、ぼくは、乱暴にたたいたりしたこともあったさ。

でも、そんな時、アイちゃんは、怒るわけでも、せめるわけでもなく、ただ、悲しそうな顔してて…

それで、いじわるすることはやめたんだ。

でも、今はアイちゃんが大好きだよ。

M・Aさん（24歳）の証言

私はもう、アイ・アイ無しには生きられないわ…

疲れた時、荒れている時に、心配そうに見守ってくれて… おかげで立ち直ることができたんです。

私を必要としてくれて、一緒にいてくれて…

へたな恋人より、ずっとすばらしい存在だわ。

Y・Hさん（45歳）の証言

とにかく、こいつだけなんですよ。

残業で、付き合いで、どんなに遅く帰っても、嫌な顔ひとつしないで出迎えてくれるのは。

こいつがいるから、家に帰ろうと思うんでしょうね。

たとえ、離婚しても、こいつだけは連れて行きますよ。

S・Jさん(50歳)の証言

子供も大きくなって、夫も仕事仕事で家にいる時間は少ないです。でも、この子がいるから、寂しくないんです。本当にかわいいですよ。

今では、実の子以上にかわいがっています。

アイ・アイを開発したA博士は、ブランデーを片手に安楽椅子に座っていた。

そして、コンピューターに向かって言った。

「どうだね。賭けは私の勝ちだろう。」

「しかし、これでは完璧とはいえません。」

コンピューターは反論する。

「ロボットによる、完璧な人類の支配とは言えません。」

A博士は笑った。

「何を言っている。これが、完璧な支配だよ。」

刑罰も拘束も必要とせずに、人の心を占領する。

そのうち、アイ・アイが右と言えば、人が右を向くようになるだろう……」

そして、勝利の美酒を口にした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1808c/>

アイ・アイロボット

2010年10月11日13時53分発行